

平成29年度 学校評価アンケート結果

1 学校教育目標

教育基本法に基づき、校訓「いのちを大切に」を体し、知性豊かで、人間尊重の精神に徹し、心身ともに健康で、自主性、創造性に富んだ、たくましい実践力をもった人間を育成する。

2 見方

- | | | | |
|------------|-----------|---|----|
| 1, そう思う | 2, ほぼそう思う | → | + |
| 3, あまり思わない | 4, 思わない | → | - |
| 5, 分からない | | → | +- |

以上の3段階で考察しています。

3 保護者回答率

回答数(人) / 総数(人) = %
 270 / 297 = 91%

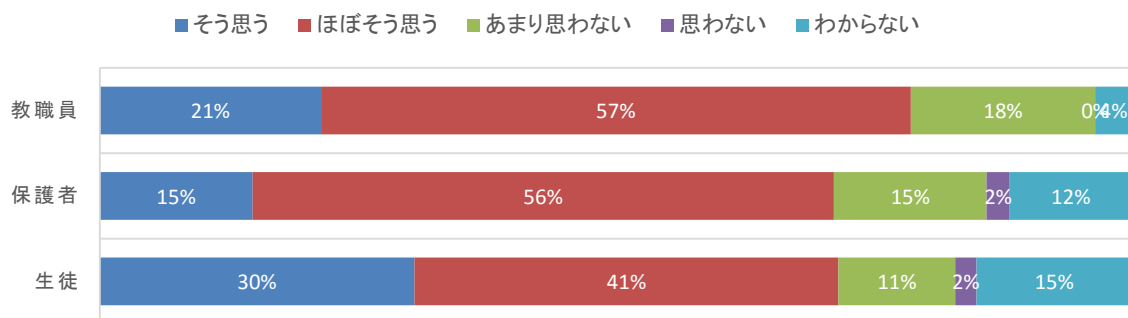
4 結果(考察)

(1)

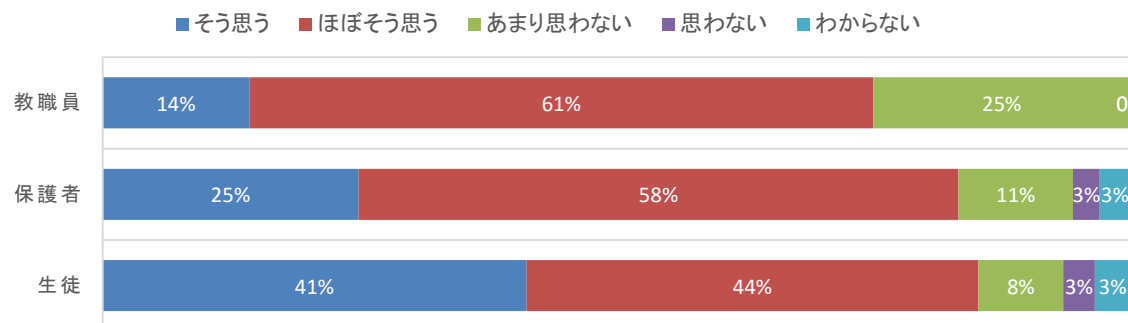
1-1 教職員では88%が肯定的に回答しているのに対し、生徒・保護者では71%にとどまっている。次年度は、生徒・保護者が本校の校風伝統であるボランティア活動・体験学習等についてこれまで以上に理解を深め、教職員と共に伝統を受け継ぎながら取り組みを継続できるようにしていきたい。また、学校からの情報発信に努め、地域・家庭との連携のさらなる深化をめざしたい。

1-2 「学校の施設・設備は十分である」と答えたのは、昨年度教職員52%、保護者79%、生徒81%であったが、今年度は教職員78%と増加したものの、保護者生徒では共に71%と、昨年度よりも減少した。教職員はエアコンの導入を評価したと思われるが、保護者と生徒は9月導入のためか今ひとつ肯定的な受け止めがなされていなかったと思われる。エアコン導入だけでなくICT機器やWIFIエリアの拡充等、教育環境の充実をめざしたい。

1-1 校風伝統を生かした学校作り



1-2 施設設備

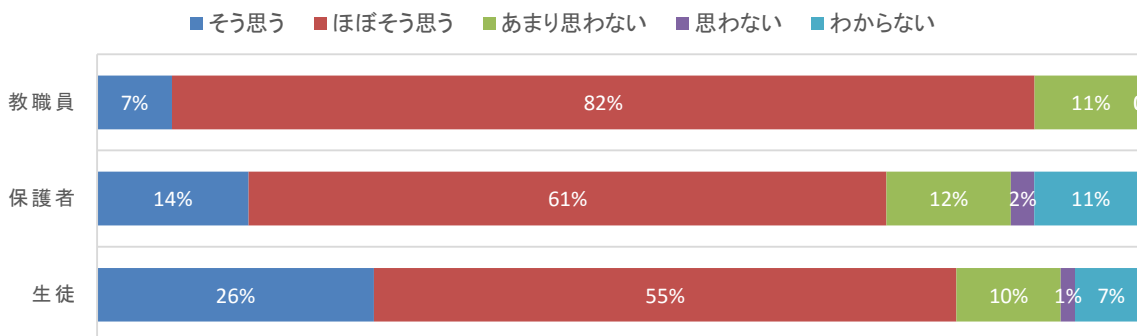


(2) 【生徒の生活に関すること】他人への思いやり・学校の決まりを守る。

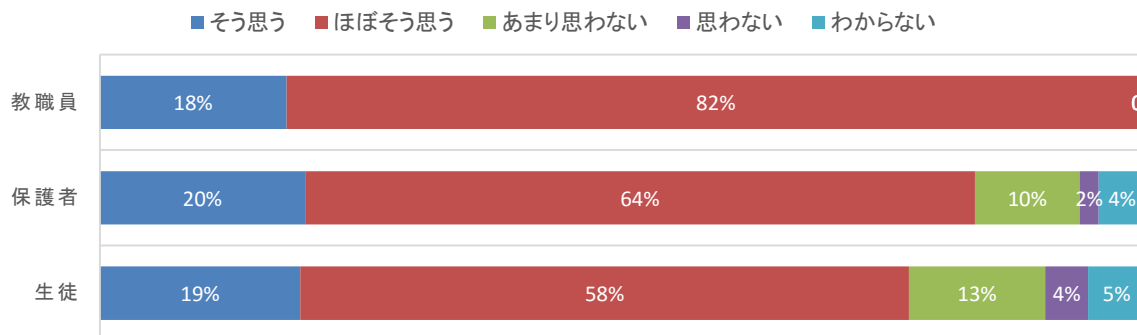
2-1 教職員の89%、保護者の75%、生徒の81%が「生徒は他人への思いやりの気持ちをもって行動できている」と答えている。今後、さらに思いやりのある生徒集団に育てていくことが求められている。「特別の教科 道徳」実施も視野に、すべての教育活動を通じてより一層の道徳教育や人権教育を進めていかなければならないと考える。校訓「いのちを大切に」を基に、「自他ともに大切にする」という人間尊重の精神を高めさせたい。

2-2 「生徒は学校や学級の決まりを守っている」という質問に対して、全教職員が肯定的に受け止めているが、保護者や生徒の約2割が、十分ではないととらえている。小さなルール違反や、交通ルールやマナーが十分守れていない状況が反映されている。校内生活の細かな見直しと、地域・家庭生活での規範意識のさらなる高揚をめざしたい。教職員は常に緊張感を保ち、生徒が集団生活の中で、社会性を身につけていけるよう家庭や地域と連携しながら指導を継続して行く必要を感じている。

2-1 思いやりを持って行動できている



2-2 きまりを守っている



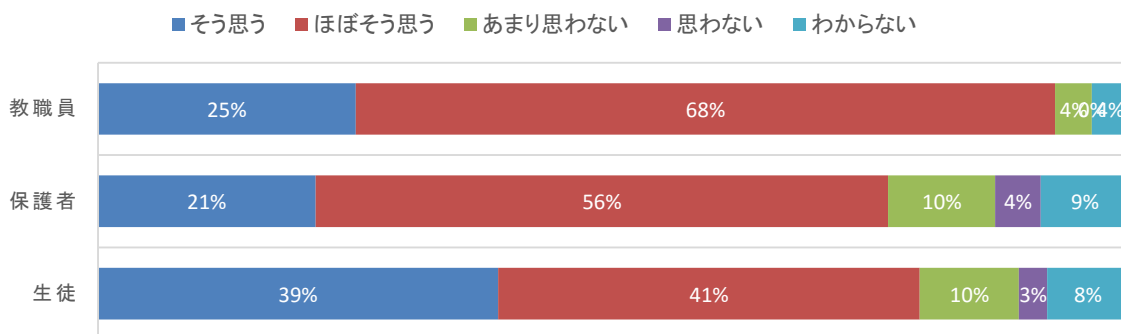
(3) 【教職員に関すること】教職員の指導姿勢・情熱

3-1 昨年同様、教職員は十分行えているとの認識であるものの、保護者と生徒ではともに約80%にとどまっている。教職員の自己満足に終わることなく、保護者・生徒の意見を真摯に受け止め、すべての保護者や生徒が納得のいく教育活動を実践していかねばならない。

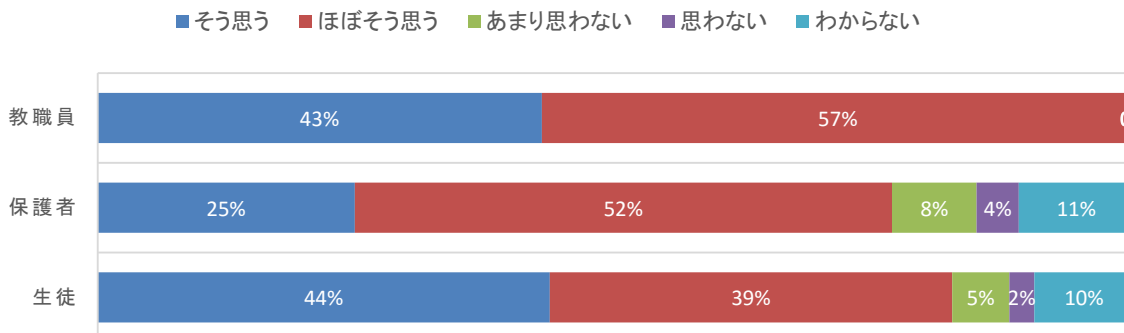
3-2 教職員の自己評価(100%)と保護者・生徒の受け止め(77・83%)に差があった。これは、昨年度も同様の結果であったが、その差は数ポイントではあるが縮まっている。次年度以降も、深い教育愛と情熱を失うことなく、生徒の未来のための粘り強く教育活動を展開していかねばいけないと考えている。

3-3 昨年同様、全教職員は「いじめなどの問題に真剣に取り組んでいる」との認識で一致している。保護者も66%の満足度が今年度は72%に、生徒でも75%から82%に上昇している。次年度以降も、保護者生徒とも100%となることを目標として、いじめの未然防止・早期発見解決に取り組まなければならない。そして、生徒一人一人が安心して生活できる那賀川中学校にしていかなければならないと考える。

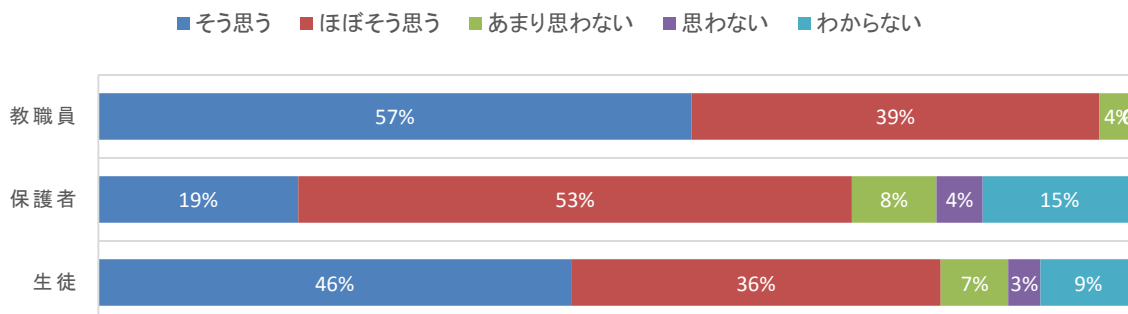
3-1 教師は適切な指導ができている



3-2 情熱をもった教職員が多い



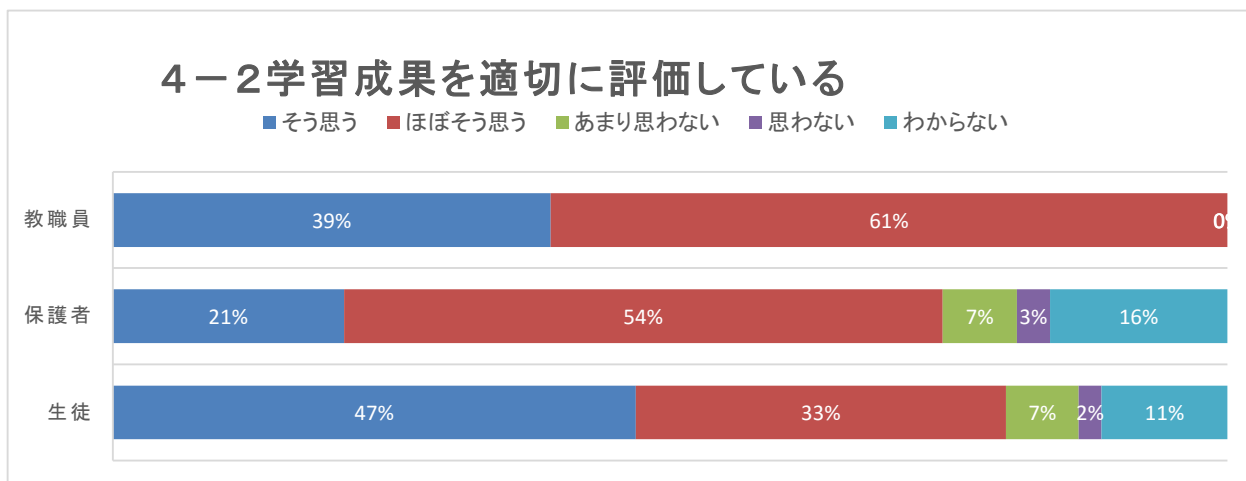
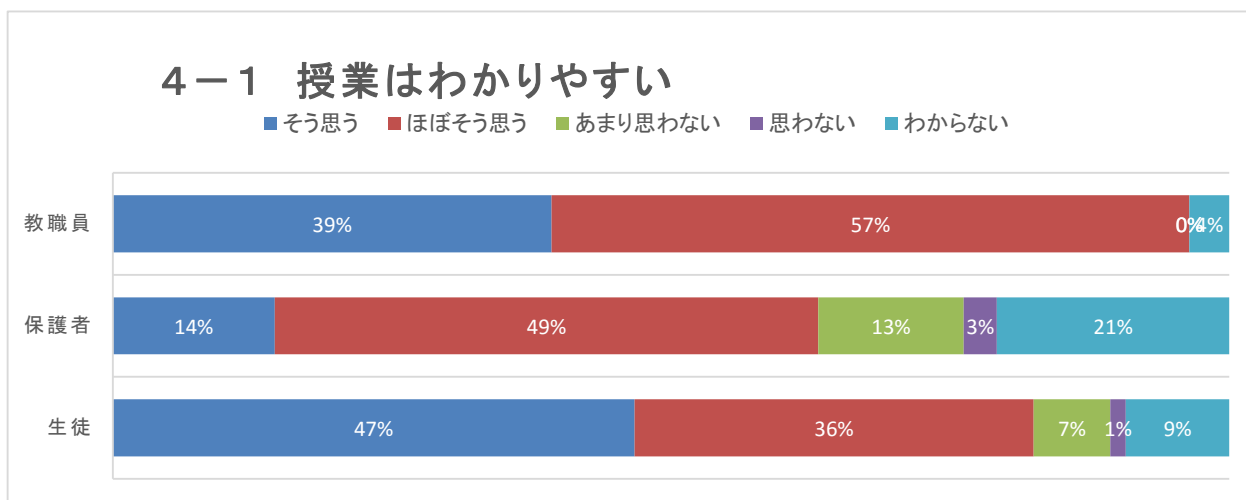
3-3 教職員のいじめなどへの対応



(4) 【授業に関すること】授業はわかりやすい・適切な評価

4-1 「授業はわかりやすい」と答えたのは教職員で96%, 保護者は63%, 生徒は82%であった。また、「あまり思わない・思わない」と回答した保護者が12%, 生徒が11%であるという結果を踏まえ、来年度以降も授業の積極的な公開や「学習の手引き」のより効果的な活用に取り組み、わかりやすい授業によりさらなる学力向上につなげたい。

4-2 すべての教職員が「学習成果を公平かつ適切に評価している」という認識であるが、保護者では75%, 生徒では80%の肯定的な回答にとどまっている。何れも実際に授業・評価に関しては教職員と生徒・保護者の間にずれがあり、大きな課題と考える。このずれの解消に向けては、教職員が生徒や保護者の声に耳を傾けながら、授業改善や評価の研究等への取り組みを充実させていかねばならない。また、評価方法や通知表の改善を含めて、保護者にわかりやすい情報の発信に取り組みねばならない。



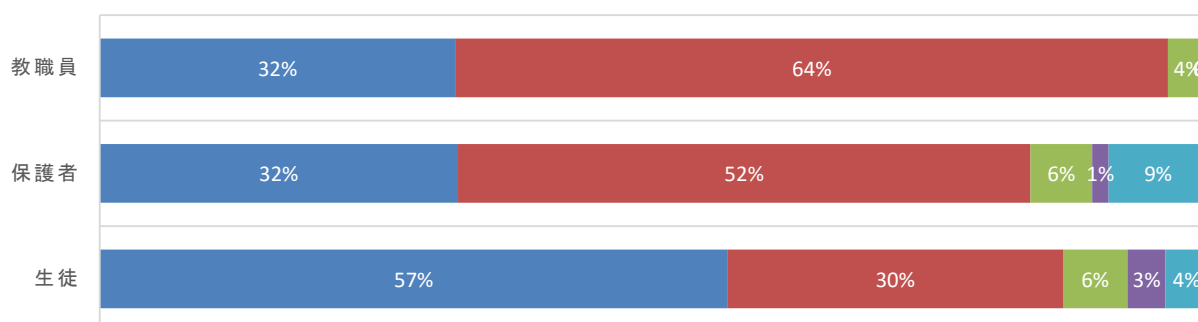
(5) 【学校行事に関すること】生徒にとって楽しい・学級のまとまりや伝統の継承

5-1 学校行事に関する質問「学校行事は楽しい」について、教職員の96%、保護者84%、生徒の87%が肯定的に答えている。ほとんどの生徒は楽しい学校生活を過ごしており、その様子に満足して頂いてる保護者の姿が反映されているものととらえている。来年度は100%をめざして取り組みたい。

5-2 「学級のまとまりや伝統の継承に役立っている」とほとんどの教職員が回答している。一方で保護者は74%、生徒は76%にとどまっている。本校の特色ある教育活動として取り組んできたオンリーワン活動、体育祭、文化祭等を那賀川中学校の伝統と深く自覚させていきたい。また、先輩から受け継いだ伝統を守り、発展させながら、誇りを持って取り組むことができるような教育活動を推進していきたいと考える。

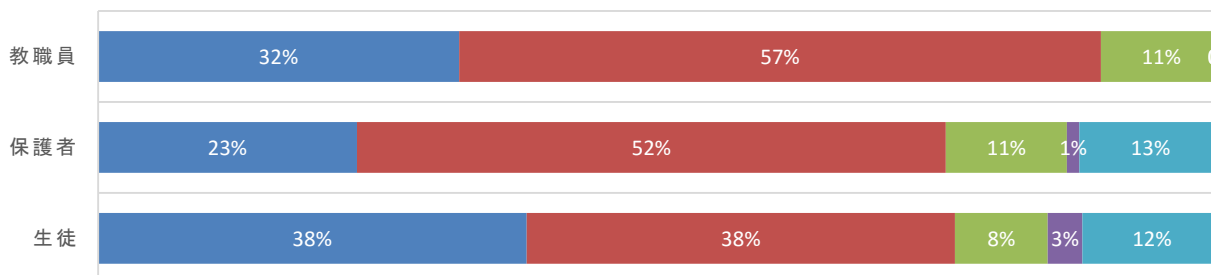
5-1 学校行事は生徒にとって楽しい

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



5-2 学校行事は伝統の継承に役立つ

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



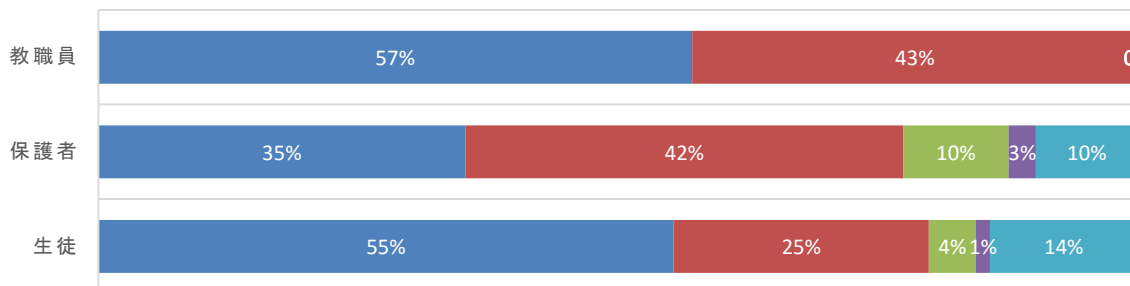
(6) 【部活動に関すること】教師の情熱を持った指導・生徒の意欲的な取組

6-1 部活動の指導に関して、全教職員が「情熱を持って指導している」と答えたのに対して、保護者、生徒ともに約80%が肯定的な回答であった。中学校にとって部活動は、大きな位置を占める大切な教育活動である。部活動の指導が教師の自己満足に陥ることなく、生徒や保護者の思いや願いに寄り添いながら、一生懸命取り組んでいけるような運営を心がけていきたい。

6-2 ほとんどの教職員が生徒は意欲的に取り組んでいるとらえており、生徒、保護者でも約80%が熱心に取り組んでいると回答している。それぞれの部の方針・練習内容の差はあるが、体力や技能の向上をめざすだけでなく、あいさつや礼儀の大切さを学ぶことも目的とする部活動は大切な教育活動の一環として維持していきたい。そのためこれまで同様、環境整備を進めていきたい。

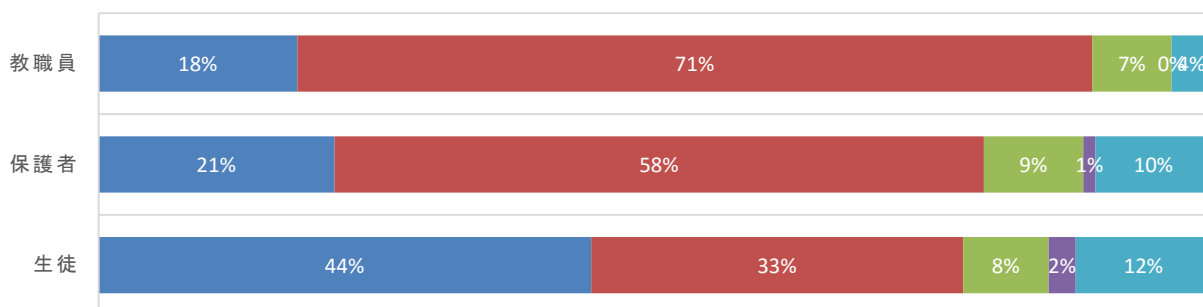
6-1 部活動担当教員は情熱を持って

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



6-2 生徒は部活動に熱心だ

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



(7) 【開かれた学校づくりに関すること】情報公開・参観日・面談・体験学習等

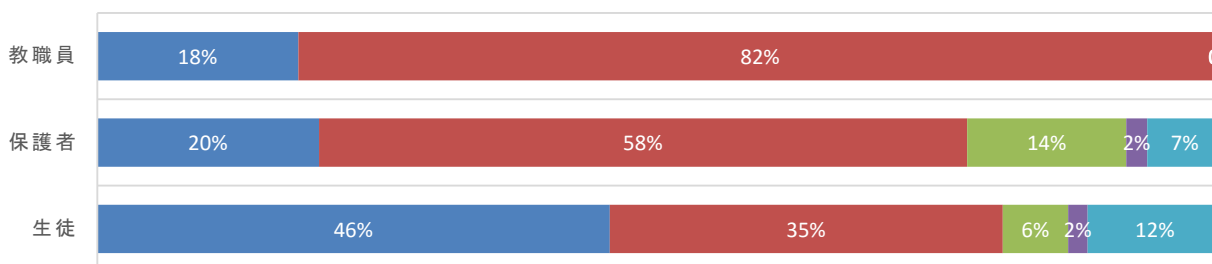
7-1 「那賀川中学校の様々な情報は十分に提供できている」と答えているのは教職員100%，保護者78%，生徒は81%であった。「学校だより」や「学年だより」，「保健だより」「給食だより」「人権だより」等の充実とともに，「那賀川中学校ホームページ」にも教育活動の内容や子どもたちの様子をさらに積極的に発信していきたい。また，開設しているメール配信も工夫して，有効活用していきたい。

7-2 「参観日や面談が適切に行われている」に対しては教職員で96%，保護者，生徒は89%が肯定的に答えている。次年度以降も生徒・保護者・教職員の三者で，生活や学習面について共通理解を図り，さらに個性の伸長と進路保障に努めたい。

7-3 「体験学習やゲストティーチャーを招いての学習が適切に行われている」と答えたのは教職員71%，保護者70%，生徒は83%と，授業を受けた生徒が最も肯定的な結果であったが，前年度より満足度は少しではあるが低下している。生徒が今年度以上に充実感を味わえるような効果的な学習をめざし，よりよい学習計画を立案していきたい。

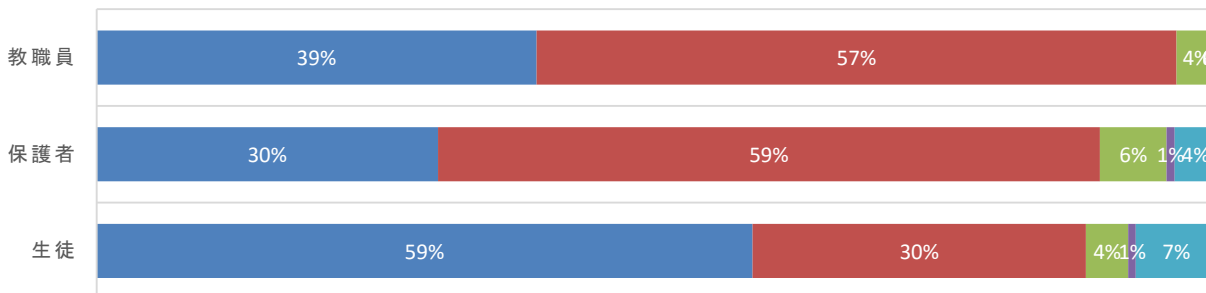
7-1 保護者に対する情報の提供

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



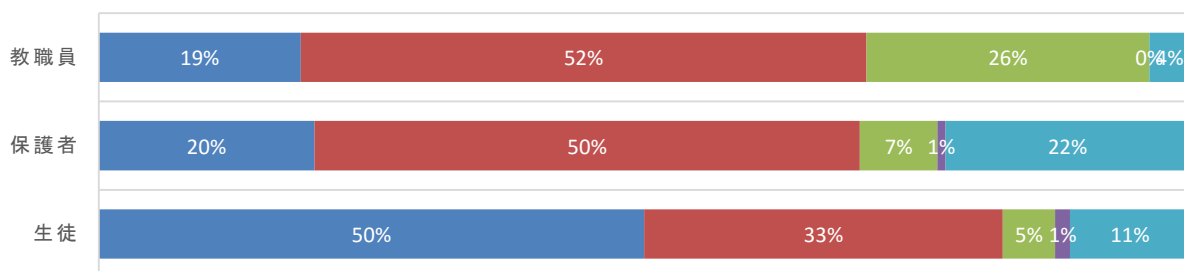
7-2 参観日や面談は適切である

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



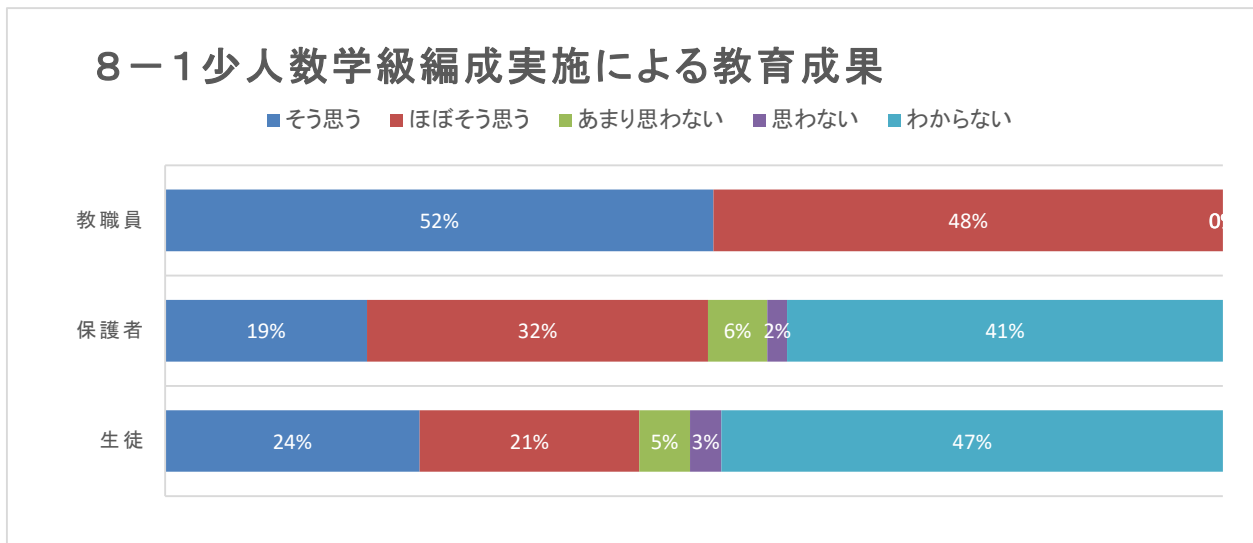
7-3 体験学習・ゲストティーチャーは適切

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



(8) 【少人数学級編成実施による教育成果】

8-1 那賀川中学校では生徒一人一人に、少しでも教師の目が行き届き、きめ細やかな学習を積み重ねていけるよう、2年生で本来3学級である学年を4学級編成としている。このことに対してはすべての教職員が肯定的な回答であった。生徒・保護者からは、約4～5割が肯定的な回答であり、1/3の学年で実施していることを考慮すれば実施学年においてはほぼ肯定的に捉えてもらっているのではないかと考える。できればすべての学年で実施したいが、教職員の数は法令で定められており現実には難しい。しかし、今年度の実績を受け、次年度以降もできる範囲で実施していきたい。



(9) 【那賀川中学校の教育全体に対する信頼と誇り】

9-1 那賀川中学校の教育全体に対する信頼と誇りを「那賀川中学校の生徒で良かったか。」という問いかけによる評価である。職員の89%、保護者の86%、生徒の88%が、「良かった」と思っている。本校教育活動の目標が生徒一人一人の幸せに向けての取り組みであることから、全員の満足を得られていない現状を真摯に受け止める必要がある。全教職員で課題を見極め、一枚岩となってその解決のための取り組みを進めていく決意である。

